

第 III 部

解説

この部では、資料として 9 に「初期ジェンダー統計関連文献〔日本〕」を収録し、10 で「日本統計研究所のジェンダー統計関係の出版物」を、その関連活動にもふれながら説明している。

ジェンダー統計活動や研究の推進のためには、これまでの活動や論議の蓄積から学ぶことが不可欠であろう。このためには関係文献のリストは不可欠である。しかし、国際的にも国内的にもこの分野の文献リストは不備である。もとより、これだけ活動・研究規模が拡大している中では、国際規模での文献リストの作成は困難かもしれない。それでも、日本語文献ないしは日本からの発信による英文なりの文献のリストは、かなりの作業量は要するであろうが、なお作成可能だろう。

この作業は、関係文献として、各分野での数量データや統計を使ってのジェンダー分析や女性の状況の分析を行った検索し、列挙すること、問題分野をどう区分するかを考慮しながら分野別に文献を配列すること、を経て行われる。この際、どこまでを関連文献としてとりあげるか、また分野・問題別の区分をどうするかなどは単純ではない。

2001-02 年の科学研究費プロジェクトの際に、上述の点について十分とは言えないが、日本での 2002 年までの文献リストが作成されている。今回、この研究所報に文献リストを掲載することを企画したときに、2002 年までのリストの補強と、さらに 2007 年の現在に至る文献を収録したリストが望ましいことはいまでもなかった。そして文献の列挙を一部開始したが、この所報の出版期日との関連で、この作業は断念することになった。

とはいえ、不十分点をふくむが 2002 年までの文献リストを掲載して広く活用供することには十分に意味のあることだと考えた。それにしても、やはり日本関係に限っての現在にいたる文献リストは必要であろう。これについては、研究所の今後の課題としたい。

本所報の冒頭「まえがき」で、本研究所が、日本でのジェンダー統計研究に比較的早く 1980 年代から取り組んできたことにふれた。この点の説明を 10 でとりあげている。研究所では、1990 年代の前半にプロジェクトを組み、主要な国際文献の翻訳・紹介を進め、市販本の『女性と統計—ジェンダー統計序説』を 1994 年に出版している。その後、科学研究費の支給を受けて 2001-02 年度と 2005-06 年度の 2 回のプロジェクトを組んでいる。この間、特に NVEC と連携した活動を 1990 年代以降、折にふれて行ってきている。10 ではこれらの活動と関連して出版物をあげた。当研究所は、今後ウェブサイト強化して行こうとしている。本所報でとりあげたトピックスふくめて、「ジェンダー統計」サイトの強化も進める。これまでと今後の研究所からの出版物および「ジェンダー統計」関連サイトが、広く活用されることを希望したい。